

建築人

11

2013





大阪ホンマもん

丹下健三の手がけた香川県庁舎が遺した
ものとは何か、を考えようとするとき、あ
る人物の存在が浮かび上がってくる。地元
香川県庁の建築技師として幅広く活躍した
山本忠司（一九二三〜一九八八）である。

香川県大川郡に生まれた山本は、一九四八
年に京都工業専門学校（現・京都工芸織
維大学）を卒業して香川県に就職し、営
繕課技師となる。その一方で、彼はスポー
ツ選手としても活躍し、一九五二年に北欧
フィンランドで開催された第十五回ヘルシ
ンキオリンピックに三段跳び選手として出
場する。それは、占領から独立を果たした
日本がオリンピックへ復帰した記念すべき
大会でもあった。この時、山本は、ローマ
やアテネにも立ち寄り、古代遺跡から最新
の近代建築までを見て回ったという。その
成果が、帰国直後に担当し、第八回国民体
育大会のために建設された屋島陸上競技場
（一九五三年／二〇一二年解体）となって
現れる。それは、北欧の近代建築に見られ
る古典主義と地域主義を併せ持った清新な
デザインでまとめられた。そして、その翌
年、山本の下に大きな仕事もたらされる。
それが香川県庁舎だった。後年に記された
文章の中で、山本は次のように回想する。

「高松市が焼野が原になって、その跡へバ
ラックを建てて、復興という仕事に取り掛
かって間もなく、私は香川県の建築セクショ
ンの一員として加えられた。昭和三年四月
のことであった。街が空襲で焼かれたのは昭
和二年七月六日の七夕の日で、焼跡の夏の
日照りはまた格別だった。焼跡がようやく
片付き、昭和二八年には県庁舎の本館の建築
に取り掛かることになった。（中略）その設
計原案が出来て持ち込まれたのが二九年の

春頃であった。それを見せられた時に覚えた、
一種の驚きを忘れることができない。それ
はコンクリートでつくった、鳥籠のような建
築の模型であった。」（山本忠司「建築―私と
の出会い」『建築文化』一九八五年四月号①）

こうして、設計から現場監理までの三年
半、香川の戦後復興の象徴となる県庁舎の
仕事に山本は没頭する。もちろん、それは、
その直前に広島平和記念資料館を完成さ
せ、続く東京オリンピックの屋内競技場や

記憶の建築 松隈 洋

瀬戸内海歴史民俗資料館 1973 年
地域主義の建築を求めて



西側からの外観



民俗展示室

東京カテドラルへと一気に上り詰めていく
一〇歳年上の四〇代の若き丹下健三の指揮
の下、現場へ派遣された道明栄次や神谷宏
治に協力し、裏方で支える地道な仕事の連
続だった。それでも、丹下の代表作となる
仕事に深くかわる中で、地元の建築関係
者も含め、大変な刺激を受けた山本は、丹
下の詩いた種を自らの糧として、高い質の
公共建築を求めて設計活動が続けていく。
同時にそれは、金子正則知事の力強いバッ
クアップの下、地元の職人と共に、地域に

根づき、風土とも調和する独自の建築の姿
を模索する作業の始まりでもあった。

こうして、山本が、「やつと丹下さんと
は縁が切れたな」との手ごたえを得たのが、
木造船や漁具、船大工の用具などを中心に、
広く瀬戸内地方の民俗資料を収蔵保管し、
公開する施設として、一九七三年に竣工し
た瀬戸内海歴史民俗資料館である。

敷地は備讃海峡を望む五色台山上の景勝
地であり、恵まれた自然環境との調和も設
計上の大きなテーマとなった。竣工後、山

本は次のように記している。

「瀬戸内海を、歴史的な時間の経過にと
もなつての人間とのかかわりあいの中で、
どのように捉え認識していくかということ
が、瀬戸内海歴史民俗資料館を計画する上
での課題であった。（中略）岩山に立ち向
かい、石を切り取ることからここでの工事
は始まった。自然破壊の行為を真つ向に振
りかざしていったのである。およそ自然の
中でのものをつくる場合、その過程の中で自

然と対立していくのか、協調していくのか、
ということがいつも問題になる。ここには
らまかれた建築群で囲まれた中庭に、松の
木のひとかたまりが自然のままに残してあ
る。それは工事中も大変気をつかって残し
たものであった。それは囲まれた自然で建
物の外側には建物を囲むより大きい自然が
ある。工事によっておびたらしい石が切り
出され、それらは他には捨てず、すべて地
上高く積み上げられた。地下深く眠ってい
た石は、人間の手によって地上に出、空気
に触れ、酸素を吸収し、新しい息吹きを得
た。すべて表情の異なる石のひとつひとつ
は集合してひとつのマスとしての力を得た。
置き換えられた自然、私がこの建物に関し
ての設計という行為の中で行なったことは、
間違いではなかったと思う。」（山本忠司「考
えから形まで」『新建築』一九七三年十月号）

山本は、敷地の高低差になじむように、
建物を基準単位八mの大きささまざまな大
さの展示室に分割し、それらが中庭を囲み
ながら群造形となるような方法を試みた。
また、外壁には、現場から発生した大量の
安山岩を緻密な職人技で積み上げ、厳しい
自然環境と対峙し、調和する造形を生み出
して見せたのである。そこには、彫刻家の
イサム・ノグチと共に訪れたルイス・カー
ンのインド経営大学の建設現場で見た、地
元の土から作った煉瓦を職人たちが積み上
げて建築が出来上がっていく喜びに満ちた
光景がヒントになったという。竣工から四〇
年、山本の求めた地域主義の建築は、今も
その方法の意味と可能性を発信している。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。
一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京
都大学卒業後、前川國男建築設計事務所
に入所。二〇〇八年十月より現職。

大阪駅前に緑のシリンダーがあらわれました。6月から始まった大阪マルビル緑化プロジェクト「都市の大樹」です。その足元に「大阪マルビル 緑のテラス」が誕生し、広場には人があふれています。計画にあたっては「日本野（にっぽんの）」をキーワードに、現代の都市における「緑」の創造について検討が進められました。ランドスケープデザインを担当された熊谷玄さんにお話を伺いました。

新たな都市の土壌：大阪マルビル緑のテラス

熊谷 玄

1973年横浜生まれ。現代美術作家崔銀氏の元でアシスタントとして働いた後、EARTHSCAPE INC.へ。2009年ランドスケープデザイン事務所、株式会社スタジオゲンクマガイを設立。アートワークとランドスケープデザインを中心に活動しています。

大阪には緑がすくないんや。我々は大阪でこんな言葉をよく耳にした。そんな大阪の街をなんとかしたい。大阪マルビルのリニューアル計画は、そんな想いをもった大和リース株式会社の森田社長をはじめとする環境緑化事業部の方々との出会いから始まりました。大和リースの皆様から相談されたのは、大阪マルビルの足下にある広場のリニューアルで、この広場を大和リースが持っている都市緑化技術を用いて緑豊かな広場に生まれ変わらせたいというものでした。

大阪マルビルは、一九七六年三月に大阪駅前のダイヤモンド地区に竣工した約四〇年の歴史を持つビルで、完成当初周辺で唯一の高層ビルだった上に円筒形の文字通り丸いビルだったことから梅田のランドマークとして大阪の人々に愛されてきました。そんなマルビルの足下に木漏れ日広場がありました。今回のプロジェクトの計画地です。木漏れ日広場という名前から、大きな樹が植わっていて、その木陰に人々が集まっているようなイメージを持っていましたが、実際に行ってみると、そこは周辺を高いビルに囲まれ、広場の名前にあるような木漏れ日を落とすような樹木は一本もなく（多分四〇年の歴史のどこかで切られてしまったのでしょう。その樹木が植わっていたであろう植栽枿は残っています。）ツツジやツゲの灌木が必要な緑化面積を満たすだけの為に植えられている、日本の都市でしょっちゅう目にするのが出来るタイプの広場でした。

しかし、この広場、人は驚くほどいつもたくさんいます。それこそ、朝、始

む都市では、どんどんと地表面積が減っています。壁が土壌となるのであれば、極端な話、立体化することで大地の面積はどんどん増えていくことになりま。そしてその新たな土壌は、まだほとんど手がつけられておらず、我々の前に広大に広がっています。このまだなにも植えられていない土壌を前にすると「緑化とはなんなのか？」というとても初源的な問いに向かわざるを得ません。自然に勝手にはえてくる緑と違い、緑化は、人が緑を植えて育てる行為です。です。で、そこには人と緑の間に関係性が結ばれることが大切ですし、その為の意図が問題になると思うのです。

そんな問いに対して答えを探すために、大和リースはグラフィックデザイナーの北川一成さんをディレクターに迎え緑化の意義を探す試み「日本野」というプロジェクトを立ち上げました。「日本野」は、農耕民族である我々日本人が、これまで植物とどうやって向き合ってきたのか？その関係を読み解くために、茶人、歌人、和菓子職人、杜氏など様々な職業の第一人者たちから話を伺い日本人と植物との関わりを探るというもので、これらの成果は一冊の本にまとめられています。「日本野」のプロジェクトが進行しているさなか、大阪マルビルはもちろん、ほぼ同時期に進んでいた新大阪駅前にお出迎え用のガーデンをつくる「ウェルカムガーデン新大阪」そして東京の日比谷公園で開催された「東京緑化フェア」とわれわれは三つのプロジェクトに関わる事が出来、これらのプロジェクトは日本野のコンセプトを具現化する試みとなりました。

発頃の時間に行っても、深夜、とつくと終電が終わる時間に行っても、誰かしら広場で煙草を吸ったり（これが人が集まる大きな理由だと思っていた。）スタバで買った珈琲を飲んだり、バスを待ったりしています。たしかにこの周辺は、地上も地下もびっしりと開発されているにもかかわらず、街角でちよつと休む事が出来るような広場がほとんど見当たりません。この広場を緑豊かな広場にリニューアルすることで、梅田の街に良質な屋外空間を提供出来るだろうし、その存在自体がインパクトになるでしょう。そう思っていた矢先に、なんとマルビル自体を「都市の大樹」と見立てビルの壁面を蔭やつる系の植物で緑化するという壮大なプロジェクトを大和ハウスと建築家の安藤忠雄氏が発表。ビル本体の緑化を大和ハウスと安藤忠雄氏、足下の広場を大和リースと我々で同時にリニューアルすることになり、プロジェクトは動き始めました。

広場の計画で課題となったのは三つ。一つ目は、四〇年という経年を考慮しつつ、現在入居しているテナントの営業に支障が出ないような改修にすること。大規模な解体工事や荷重のかかる高木を植えることは基本的にNGとなりました。二つ目は、この場所をより積極的なプログラムが展開可能な都市アメニティスペースとすること。マルビルの好立地を活かして、例えばテナント連動したイベントの開催。ジャズコンサートやワインの試飲会、結婚式の写真撮影やキャンブグズの展示会など、これまでの広場では出来なかったことをどんどん行うことで、広場の利用頻度を上げマルビルに

例えば「日本野の間」と名付けられた東京緑化フェアでは、土の壁を「新たな土壌、未来の壁」と位置づけ、その壁でつくられた三つの「間」を体験してもらう試みを行いました。壁面に植えられた植物は、当時、世界最先端をいっていた江戸時代の園芸文化。大名から庶民まで植物を愛し育てた文化の主役となった植物たちを中心に構成しました。また、ウェルカムガーデン新大阪では、大阪の緑の名所や自然を紹介するインフォメーションガーデンとして、大阪平野の原風景とも呼べる潜在自然植生となる植物で構成しています。いずれの場合も、つくられた場をとおして日本野の答えを提示するわけではありません。ただ、人の営みと緑の関係を考えるきっかけとなる場を提示したいと思いました。

そして、大阪マルビル緑のテラス。



広場には、壁面緑化以外にも様々な植物が植えられている。

とってもテナントにとっても有意義な場とすることが求められました。そして三つ目は、緑の量を増やすのではなく、緑の質を上げること。単純に緑化率や緑被率を追いかけて、緑の面積は広いが全く印象に残らない緑をつくるのではなく、人間の活動と緑の関係をつくりだすこと。そして、それは当然大和リースが展開している環境緑化技術を用いて実現すること。この三つでした。広場はやはり人に使ってもらってこそだと思っています。たばこは吸えなくなりましたが、友達とおしゃべりしたり、スタバで買った珈琲を飲んだりといったこれまでこの場所で行われていた活動をより快適にすることでも、もっと多くの人々に使ってもらいたい。その為に緑が広場でくつろぐ人を包み込むように存在し、緑の気持ちよさを多くの人に提供する。そんなことを考えて、まずは土を立てて、大地で広場を囲いました。

広場を囲むために立てられた土の壁は、大和リースが展開している壁面緑化技術で、それはフランスカネバフロール社の持っている壁面緑化技術です。この技術はいわゆるカセット式の壁面緑化と違い「土の壁」をそのまま立ててしまう非常にシンプルなもの。ポット式の場合、一つの植物に対して割り当てられる土の量がポットによって厳密に制限されますが、土の壁を立てるこの方式だと、壁の中の土は全て繋がっていて、植物の基盤もひとつに繋がっています。いってしまえば本当に大地がただ立ってしまっただけの状態なんです。しかし、これはつまり新しい土壌といえるのではないかと？

そんな風に考えると通常、高密度が進

ここは、何十年もの時をかけてビル全体を緑化し、「都市の大樹」へと育てていく場になります。そんな足下の広場なので人と緑の距離がとても近く、そして、そこに植えられている緑はこの先、時代の変化でどんどんと植え替えられていくばいと思いい、「日本野の野」と名付けました。近くなった距離をより感じてもらう為に、はじめは「やわらかい」植物を中心に構成しています。この野で多くの営みが行われることで都市の緑化のよさを感じてもらえればと願っています。広場の中央にしつらえられたステージの背になっている巨大な壁面緑化は、建物の内側、第一ホテルのフロントから見ると左官職人挟土秀平氏による見事な土の壁となっていて、「新たな都市の土壌」というこの計画のコンセプトを表現しているのです。



テラスで憩う人々。ランチタイムは大勢の人でにぎわう。



敷地は、山陽本線垂水駅から北西へ1km程の小高い丘にある。北側に屋上を含めて3層に亘って自走式の駐車場があり、その2階をデ
イサービス（定員50人）と、その駐車場として用途変更をした。
南側には前面道路に面して約120坪の野天の駐車場があった。
このエリアにいわゆるデサービスを併設したサービス付き高齢者向け
住宅を登録基準に則り43戸を計画した。台所・居間は、入居人同士が
歓談できる食事スペースとなり、リラックスできる場所となった。
何より、屋上テラスから大阪湾のパノラマは、絶景である。入居人、そして、
介護者をきっと癒してくれるだろう。（樫永一男 元所員高島大輔）

建 築 主：アルファイト
所 在 地：神戸市垂水区
用 途：デサービス及
びサービス付き
高齢者向け住宅
竣 工：2013.9
構造規模：鉄骨造
地上6階建
敷地面積：1,652.93㎡
建築面積：960.57㎡
延床面積：2,153.06㎡
写 真：浅田美浩

INFORMATION

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

会員の皆様へ 「応急危険度判定士」資格取得のお願い

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。この機会に判定士養成講習会を受講され、本会判定士ネットワークへの登録をお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会 12/18・2/19 CPD4 単位

日程 ①12月18日(水) ②2月19日(水)
時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(申込先着順)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
申込先・問合せ
一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

平成25年度 建築士定期講習 1/31、3/26 CPD各6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方が対象です。なお、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。

■日時・会場
1/31(金) 9:40～17:30
たかつガーデン、定員200名
会場コード5C-03
3/26(水) 9:30～17:30
大阪国際会議場、定員300名
会場コード5C-54
■申込締切日
1/31(金)開催分:12/25(水)申込書必着
3/26(水)開催分:2/28(金)申込書必着
※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,900円(消費税含)
■申込書記布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

平成25年度既存鉄骨造建築物の耐震診断・改修指針講習会 11/8 CPD6単位

既存建築物の耐震診断・改修等に関する技

術者の育成を目的とする講習会です。
日時 11月8日(金) 10:00～17:20
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 100名(申込先着順)
受講料 会員6,000円 一般8,000円
テキスト代 (a) 指針・同解説 8,800円
(b) 施工マニュアル 7,350円

建築士法にもとづく「臨時建築技術講習会」 溶融亜鉛めっきによる防錆・防食技術 11/18 CPD3単位

鋼材は、そのままでは腐食損傷し“さび”を生じます。防錆方法としては塗料が一般的ですが、今回の講習会ではメンテナンスフリーで耐食性、経済性に優れた溶融亜鉛めっきについて分かりやすく解説します。
日時 11月18日(月) 13:25～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階
内容 ・溶融亜鉛めっきの基礎
・鋼構造物の溶融亜鉛めっき
定員 150名(申込先着順)
受講料 建築士会会員3,000円、
一般5,000円(テキスト代含)

平成25年度既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断・改修指針講習会 11/19～20 CPD単位:1日5単位

既存建築物の耐震診断・改修等に関する技術者の育成を目的とする講習会です。
日時 11月19日(火)～20日(水)の2日間
①10:30～16:00 ②10:30～16:30
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 100名(申込先着順)
受講料 会員8,000円 一般10,000円
テキスト代 14,000円

平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》 11/27 CPD5単位

平成24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり、最新の診断技術を取得していただく講習会です。
日程 ⑥11月27日(水)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(申込先着順)
受講料 会員5,000円、会員外9,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》 12/17 CPD6単位

大阪府マニュアルに基づいて限界耐力計算による診断技術を習得していただく講習会です。
日程 12月17日(火)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(申込先着順)

受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 3,500円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建築士法にもとづく「臨時建築技術講習会」 耐震関係の最新情報と確認申請Q&A 12/5 CPD3単位

今回の建築技術講習会は建築技術者の方を対象に、担当行政から耐震関係法令の最新情報を解説して頂きます。また、当会賛助会員出版の『目からウロコの建築確認のポイントQ&A』をテキストとして、スムーズな建築確認申請のポイントを分かり易く解説します。
日時 12月5日(木) 13:25～16:55
会場 大阪府建築健保会館6階
内容 ・耐震改修促進法等一部改正
・目からウロコの建築確認のポイントQ&A
定員 150名(申込先着順)
受講料 建築士会会員4,000円、
一般5,000円(テキスト代含)

実践建築スクール《大阪府知事指定講習》 木造住宅耐震診断・耐震改修コース 12/11～1/29 CPD10単位

建物の耐震化の重要性が注目されている中で、現場ではどのように診断が進められているのか、見落としてはいけないのはどこか、また補強はどのように考えればいいのかなど、木造住宅の耐震診断・補強設計・施工監理に関する実務レベルでの実践研修を全5日間で開催いたします。
日時 2013年12月11日、18日
2014年1月15日、22日、29日
全日程とも(水) 18:30～20:30
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 ・耐震診断、耐震改修のための基本事項
・耐震診断の実践
・耐震診断結果のまとめ方
・診断結果の考え方
・耐震改修工事の進め方
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員10,000円、
一般15,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

実践建築スクール《大阪府知事指定講習》 木造住宅設計・監理コース 2/7～2/21 CPD18単位

本講習会は、これから木造住宅の設計・監理に取組もうとする建築士や、木造住宅の設計・監理技術のスキルアップを目指す建築士などをはじめ、建築士以外の建築技術者も対象にして全3日間で開催します。ぜひ木造住宅の設計・監理のスキルを身につけられ、日常業務にお役立て下さい。
日時 2014年2月7日、14日、21日
全日程とも(金) 9:30～16:50
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 木造の基礎知識、基本設計、実施設計、地盤・基礎設計、軸組設計、耐風・耐震設計、確認申請、工事監理
定員 50名(申込先着順)

受講料 建築士会会員15,000円、
一般19,000円
テキスト代 3,000円(木造の壁量設計演習帳)

ちょっと知りたい建築セミナー 設備編 「LED照明の今」～LEDを使いこなそう～ 11/5 CPD2単位

LEDの照明用光源としての可能性と最新情報、その特性を生かした照明計画についてお話しいたできます。
日時 11月5日(火) 18:30～20:30
会場 ㈱建築資料研究社大阪本店
大阪市北区鶴野町1-9
梅田ゲートタワー3F
定員 50名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
講師 日根伸夫・西村美由紀
(Noi Planning Studio(ノイ プランニングスタジオ))

すぐに役立つ実践塾 「確認申請のいろ・は」第2弾 ～簡単な木造2階建てを申請しよう!～ 11/8、11/15、11/22、11/29 各回共CPD2単位

木造2階建てに特化して、基本的な確認申請のながれ、手段について実践セミナーを開催いたします。演習を交えながら確認申請のいろ・はのいから実際の提出書類・図面を作成するまで4回にわたり開催いたします。4回連続受講をお勧めいたしますが、単独の受講も受け付けます。
開催日 11/8、11/15、11/22、11/29
時間 18:30～20:30
会場 ㈱建築資料研究社大阪本店
大阪市北区鶴野町1-9
梅田ゲートタワー3F
講師 一級建築士事務所 設計TANAKA 田中克之
定員 40名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外2,000円
4回連続受講された方に限り、第4回の受講料を半額とさせていただきます。

建築士の会 東大阪 建築士の会 やおかしわら わくわく探検(駅前シリーズ) 第13弾 近鉄大阪線安堂駅から太平寺周辺散策 (太平寺史跡巡りとワイナリー見学) 11/16 CPD3単位

ブドウの産地として知られる柏原市の老舗ワイナリー「カタシモワイナリー」を見学、ワインの歴史等を学び、テイステイングもさせていただきます。
日程 11月16日(土)
集合 近鉄大阪線安堂駅改札口
解散 カタシモワイナリー
スケジュール
9:00 受付開始 9:15 散策出発
12:30 クイズの解答、賞品授与
13:00 解散
募集 25名(申込先着順)
参加費 1,500円 小中学生無料
※参加証は実施1週間前に出状します。

このINFORMATIONページの詳細は本会ホームページにも同時掲載しており、ホームページから直接予約することができます。
下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)

【大阪府建築士会ホームページ】 <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

建築士の会 北河内 東高野街道歴史散策 IN 八幡 ～京阪八幡市駅前から始まる歴史街道を散策しませんか?～ 11/17 CPD2単位

京都府京阪八幡市駅から松花庭園までを歴史ボランティアの方の案内のもと散策します。
日時 11月17日(日) 13:00～受付
13:30出発～16:30解散予定
集合場所 京阪八幡市駅 改札出口前
参加費 1,000円
(資料・お茶代含む。庭園入園料、バス代は別途)
※懇親会参加費 別途3,500円程度必要
定員 40名(申込先着順)
行程 13:30八幡市駅⇒神応寺⇒航海記念塔⇒高良神社⇒榎植神社⇒善法律寺⇒正法寺⇒八角堂⇒16:30松花庭園までの約3時間程度 歴史散策ウォーキングで紅葉も見れるかも知れません。17:00～19:00(バス移動後)懇親会予定。
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

平成26年在阪建築15団体合同新年交礼会 1/6

日時 1月6日(月)15:00～16:00
会場 リーガロイヤルホテル 2階山楽の間
大阪市北区中之島5-3-68

会費 3,000円
申込締切日 12月3日(火)
会費を添えて12月3日(火)までに本会事務局までお申込ください。12月10日(火)以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願い致します。

滋賀工場見学バスツアー
～TOTO滋賀工場+LUPICIA滋賀工場～
11/26 CPD4単位

滋賀県琵琶湖の南に、点在する工場群の中から、TOTO株式会社のTOTO滋賀工場と、LUPICIA滋賀工場<設計:古谷誠章氏/NASCA・施工:㈱竹中工務店>を、見学します。
日時 11月26日(火) 8:00～17:30
会場 TOTO滋賀工場 滋賀県湖南市朝国1
LUPICIA滋賀工場 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-7
講師 TOTO(株) 滋賀工場担当者
(㈱竹中工務店 笠 義秀
定員 25名(申込先着順)
参加費 5,000円

建築士の会 南河内 天野山金剛寺金堂(重要文化財)解体 復元工事現場見学と講演+活動報告会 11/30 CPD3単位

今回で3回目の「天野山金剛寺の金堂及び多宝塔(重要文化財)」の解体復元工事現場見学会を開催いたします。多宝塔の屋根の葺き替え、金堂の修復現況、檜皮採削、檜かんな等の実演、金剛寺の庭園、北朝の間、楠公ゆかりの品の展示館など見学後、昼から京都芸大の宮本道夫教授による金剛寺と彩色についての講演を聞いていただき、文化財についての見聞を深めていただきます。
日時 11月30日(土) 10:00～14:30
募集 30名(申込先着順)
参加費 3,000円 (昼食代含む)
行程 10:00～10:15金剛寺金堂前集合・受付
10:15～12:00金剛寺金堂・多宝塔解体復元工事現場見学
12:00～13:30そば打ち道場にて昼食、平成25年度活動報告会、移動
13:30～14:30金剛寺にて講演会参加後、現地自由解散
※参加証は実施1週間前に出状予定です。

2013年建築関係団体合同忘年懇親会 12/13

共催 日本建築協会(当番会)・大阪府建築士会・大阪府建築士事務所協会・日本建築家協会近畿支部
日時 12月13日(金) 18:00～19:30
(受付17:30～)
会場 シティプラザ大阪2階「旬」
大阪市中央区本町橋2-31
会費 5,000円
会費を添えて申込締切日11月18日(月)までに本会事務局までお申込下さい。11/25(月)以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願いします。
定員 230名
福引 豪華景品を進呈(有志のご寄贈品を含む)

平成26年在阪建築15団体合同新年交礼会 1/6

日時 1月6日(月)15:00～16:00
会場 リーガロイヤルホテル 2階山楽の間
大阪市北区中之島5-3-68

会費 3,000円
申込締切日 12月3日(火)
会費を添えて12月3日(火)までに本会事務局までお申込ください。12月10日(火)以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願い致します。

第9回海外研修旅行 「ミャンマー・ヴェトナム～魅惑の発展都市を巡る～」 3/5～12 CPD申請予定

今、沸騰するアジアの国々を見て感じて学ぶ海外研修を企画しました。詳細は事務局に資料請求をお願いします。
日程 2014年3月5日～12日
行先 ミャンマー・ヴェトナム
コーディネーター 森田茂夫(国際分科会代表)

本会の催し参加申込方法

本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。

問合せ・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

平成25年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会(第二弾)開催

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・実物大カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
11/7(木)、11/14(木)、11/16(土)、11/23(土)、11/30(土) 時間10:00～17:00
会場 花博ハウジングガーデンセンターハウス2階
大阪市鶴見区焼野1丁目南2番
費用 1,000円(受講料)+別途修了証発行手数料
主催・問合せ 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾
詳細はHP(<http://www.shoene.org/>)もしくは上記問合せ先へお問合せください。

第8回「建築用木材の乾燥の話」 一建築用木材の乾燥メカニズムと適切な乾燥法について学ぶー

十津川の森木灯籠(ことぼしかん)が建築業界の方を対象に開催する木材セミナーです。
主催 十津川村
日時 11月14日(木) 13:30～15:45
講師 K's木材研究所 小林好紀
参加費 無料
場所 十津川の森 木灯籠(ことぼしかん)
奈良県橿原市曲川町7-20-1
イオンモール橿原敷地内(15番入口前)
申込 十津川の森木灯籠(ことぼしかん)
(火・水曜休館日)
Tel.0744-46-9841
E-mail:info@kotoboshi.jp

大阪の住まいカアップ 第2回リフォーム・リノベーションコンクール

大阪府内でのリフォーム・リノベーションの事例を募り、優秀な事例を選定し、府民へホームページ等で情報発信することにより、中古住宅をリフォーム・リノベーションして、住みたい街に住むことの魅力を広げていくことを目的としています。

対象 大阪府内で平成23年1月から平成25年12月20日(金)までの間に、リフォーム・リノベーション工事が完了した住宅(他、条件有)
応募部門 ①戸建部門 ②町家・長屋部門
③マンション部門

応募書類入手方法
ホームページ(<http://osaka-sumai-refo.com/>)から所定様式をダウンロード。
応募期間 11月5日(火)～12月20日(金)
(当日消印有効)
賞 部門別最優秀賞(各1点以内)、部門別優秀賞(各2点以内)、特別賞
問合せ 大阪府住宅まちづくり部居住企画課住宅施策推進グループ大阪の住まいの活性化フォーラム事務局担当 上木、野村
Tel.06-6941-0351(内3032)

Others

その他のお知らせ

(公社)日本建築家協会近畿支部 大会・大阪2013「ツナギ」～現在(イマ)と未来(ミライ)の地域ネットワーク～

(公社)日本建築家協会近畿支部では、11月25日から12月8日まで、2週間に渡り、近畿支部大会・大阪を開催します。
テーマは「ツナギ」。建築家たちが集い、地域市民や学生たちなど様々な人たちと出会い、新しいネットワークをつくるための大会です。
■イベント概要
I 実現に向かう学生コンペティション公開審査・討論会
competition S 手をつかわないハンドル
competition M 4階建ビルの全面リノベーション
competition L 歴史的建造物の再生と活用
II 建築家と地域ネットワークの「イマ」・「ミライ」
日時 11月30日(土)
大バネル展示会 9:30～19:30
学生コンペティション公開審査会 10:00～12:30
公開討論会 13:00～15:15
式典・表彰式 15:30～17:40
レセプションパーティ(会費6,000円)18:00～19:30
会場 綿業会館7階本館及び新館大会場

Ⅲ おおさか・まちArchi(あるき)フェスタ
協会会員のショールーム等において、近畿支部各委員会・部会、協力会員企業、個人活動家などが企画したセミナー、展示会、相談会、まちあるき、ワークショップなど、大阪市内を中心に、開催期間中あちこちで開催します。

日時 11月25日(月)～12月8日(日)
ただし、中之島デザインミュージアムは12月2日(月)より
会場 協力会員ショールーム、中之島デザインミュージアム de sign de >

イベントテーマ
「住吉の人とまち」展、千里みらい夢学園サマースクール、関西建築保存サミット、建築紛争における建築士の役割、市民シンポジウム:欠陥住宅被害の実態、無垢の内装材についての討論会、建築士のインスペクション業務、環境建築への木材利用について、すまいCafé、建築家3人展、Bar-JIA@中之島 など
問合せ・申込 日本建築家協会近畿支部事務局
Tel.06-6229-3371
詳しくは、近畿支部ホームページ内「ツナギ」サイト
<http://www.jia.or.jp/kinki>

第36回<プロのノウハウ>講座 「住宅メンテナンスのツボ」CPD2単位(申請中)

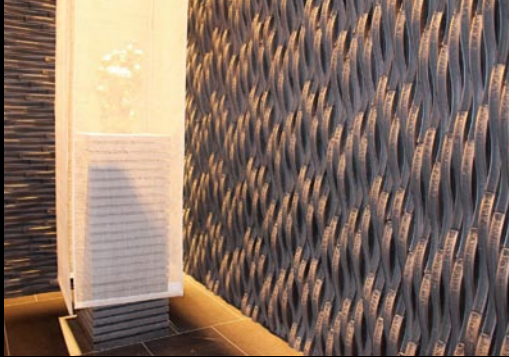
10月に発売された講師の新刊書をテキストに、住宅メンテナンスのツボを具体的に解説します。
日時 11月26日(火) 18:00～20:00
会場 TOTO DAIKEN YKK AP
大阪コラボレーションショールーム
大阪市北区角田町8-1梅田阪急ビル
オフィスタワー20階
講師 玉水新吾 定員 40名(先着順)
受講料 一般1,500円(テキスト代別)
問合せ・申込 (一社)日本建築協会
Tel.06-6946-6981



いぶし敷瓦



割はだボーダー瓦



波型割はだボーダー瓦

淡路瓦イズム

『いぶし瓦新発想』

野水瓦産業株式会社

<http://www.nomizu.co.jp/>

取材：中間伸和／建築情報委員会委員

400年の歴史を持つ淡路瓦は「淡路瓦イズム」を通し、これからの時代に社会から必要とされる瓦づくりに挑戦しようと考えています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介しています。

今回は日本の伝統的建造物の屋根として使われ続けている「いぶし瓦」にこだわり、造り続けている野水瓦産業（株）です。

「400年間、和型（瓦）が屋根材としてまったく変わることなく使われ続けているのは、この曲線があることによって通気層ができ、下の野地板表面がよく乾燥するので、屋根自体が何十年も長持ちすることによります。また、微量の遠赤外線も出しているのでこれも乾燥させる要因になっています。」と「いぶし瓦」の特徴を話す野水瓦産業（株）の野水直哉専務。現在でも会社で生産する約8割をこの伝統的な「いぶし瓦」で占めているそうです。

しかしながら、常に変化をしないと生き

残っていけないのは、着物やその他の伝統的産業と同じであり、新しい使い方、発想に今までもチャレンジしてきたそうです。

実は瓦はとても自由がきく素材であるので、細かい部分でオリジナリティを発揮することができます。色々なパーツがあり、その組み合わせを考えてもらえば新しいこともできる。とのことで、景観材や内装材としても様々な建築家と協働して造り出し、商品化してきたそうです。

「いぶしブリック」はインターロッキング材と違い、時が経つほど風合いが増します。10年、20年後の方が良くなるのは用賀プロムナードで実証済みです。（ちなみに用賀で使われた材料は野水産業（株）が焼いたものです）

タイルより低い温度で焼かれる「いぶし敷瓦」は柔らかく素足で歩くととても気持ちが良い。庭に最近流行りの固い輸入木材を利用したデッキを採用するのなら、敷瓦も

ぜひ候補に入れてみてはどうでしょうか。

平瓦に両側からカッターで切り口を入れて割ることによって切断面が3層となる。それを仕上げ面として使う「割りはだボーダー瓦」はとても特徴的な瓦です。外はつるつるで中が荒い目となり、これを小端立てで使うと、床であればノンスリップ効果のある敷材、壁に使うと京都の瓦塀のような雰囲気味わえます。また、カッターの切り口を曲面にする「波型割はだボーダー瓦」もあり、これを壁に使うと躍動感を表現することが出来ます。

これらの商品だけでなく、瓦の新しい使い方は色々無限大にあると思います。良いアイデアがあれば、ぜひ野水専務に相談、問い合わせをしてみてください。

■淡路瓦のお問い合わせ先
淡路瓦工業組合
兵庫県南あわじ市湊 134
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030
info@a-kawara.jp
<http://www.a-kawara.jp/>

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十月十六日（水）十六時～十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事三九名、監事二名

（1）会計報告の承認

九月末日の当期経常増減額は、収益八八、八二四、二三円、費用六二、九三二、五六三円、増減二五、八八二、五六〇円を報告して承認された。

昨年同期に比して、収益約一六〇〇万円、費用約一五〇〇万円それぞれ下回っており、諸活動の事業規模の縮小が目立っている。

（2）収支報告（決算見込み）

上半期の状況及び下半期事業計画をもとに、現時点での決算見込みは△約三四〇万円の予測となることを報告した。主な要因は、減収は試験・専攻・定期耐震等の受験者・受講者の大幅減少に起因し、増収は新規の行政支援活動によるものである。

（3）理事及び監事の選任規程案

従来の選挙制を合議制（選考委員会の設置）に変更しようとするもので、会長が牽引する方針の一環として承認された。十月に選考委員会を設けて、推薦者の検討に移る。

（4）大阪建築コンクール審査委員

本多友常（審査委員長）、長坂大、松隈洋、濱田徹、萬田隆、平田真、以上の各氏に委員を依頼し、了解を得た。

（5）津波浸水対策研究会の設置

耐震診断・被災度判定の始動に続いて、社会貢献委員会に設置することを承認した。

（6）本会会議室の研修室利用の提案
セミナー等の会場費軽減のために会議室を利用するもの。使用に伴う諸問題（遮音間仕切り等）の対策及び費用を提示のうえ、費用対効果も踏まえて継続検討する。

建築相談

建築士の見たトラブル事例（十五）

違法ではないけれど…

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の桑原宏明様に話題提供をいただきました。町を歩いていると、確認申請をよくとれたなと感じたり、違法では？と思われる建物を見かけます。もちろん正しく手続きを済ませているものもあると思います。建築基準法は、あくまでも最低限のルールであり、ただ単に建築基準法を守っていれば「良い建築」になるわけではありません。違法ではないけれど、適切ではないという建物は確かに存在します。今回は、そんな話題です。

老後に備え終の棲家として高層マンションを購入した女性から電話相談がありました。引き渡しが目の前に迫ったタイミングに、関西にも少し大きな地震がありました。自分がこれから住むすまいで避難のことが心配になりました。その高層マンションは、三つの棟がエキスポンションジョイントで連結され、屋外避難階段が二つ設置されています。相談者は、階段のない棟を購入されました。

そして、相談者は販売会社に尋ねました。販売会社の回答は、「大地震の際には、棟と棟の間のエキスポンション部分は五十センチ程度の隙間が生じるため、飛び越えて隣の棟の階段から避難して下さいとのことでした。」「高齢者に対する適切な避難でないと思う。違法性があるのではないのか？」という疑問が生じ、電話をされたそうです。

電話での相談だけでは難いため、後日面談を行いました。資料を見る限り違法性はない建物でしたが、相談者が心配されるように高齢者の配慮が十分ではない計画に見受けられま

した。一般的に分譲マンションは、事業採算を最重要視し、最も効率的な計画がされます。建築基準法は建物を計画する上での最低限の基準であり、基準法を満たすだけでは十分でないことが明確にあらわれた事例だと感じました。

相談者の方も理解はしつつも納得のいかない結果となりました。私たち建築士が日常の業務でも意識すべき課題であり、また建築相談を通じて少しでも早い段階で市民が相談できるような環境作りが重要だと感じる相談事例です。

別の事例ではこのようなことがあります。

木造2×4の二階建て住宅で、何度直してもすぐに二階寝室の掃き出し窓とその直下の一階の掃き出し窓の隅部のクロスが共にねじれるそうです。この建物は当然確認申請も完了検査も受けておりますし、構造の性能表示（設計・建設）も取っています。

しかし、玄関とその廊下に細長い吹抜があり、LDKには大きな吹抜があり、小屋裏にロフトがあります。バルコニーが跳ね出しており、玄関はピロティ形状で上部に居室があります。よく2×4で設計したものだと思心しました。構造計算書は、長手方向が〇・九九とぎりぎりですが基準はクリアしています。決して手続きや計算において間違っているわけではありません。ただ、一般的な設計者の感覚では、計画に無理があるのではと思うでしょう。この構造であるならば、開口部の隅でクロスがねじれるだろうと感じると思います。

建築基準法は最低限のルールしかありません。そのルールを守った上で「良い建築」を作るのが私たち建築士の社会的使命です。住む人・使う人にとって、安心・安全・快適でなければたとえ経済性やデザイン性に優れていても「良い建築」にはならないでしょう。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

「建築は時代を映し文化を受け継ぐ。」大阪市中心区に重厚で趣のある建物がある。その大阪倶楽部は、住友第三代総理事務鈴木馬左也氏を中心となつて、商都大阪に格調高い社交倶楽部を大正元年（一九二二）に設立したものだ。

初代建物は、突然の出火で焼失したため、急遽建築委員会を設置。当時の片岡安氏ら三顧問が、建築規模と所用室を定め、実施設計を安井武雄氏が担当し、建築工事は大林組が請負った。建物規模は地下一階、地上四階建てで、構造は鉄筋コンクリート造。竣工は、関東大震災後の大正三年（一九二四）年。安井氏はこの建築を「南欧風ノ様式ニ東洋風ノ手法ヲ加味セルモノ。」と説明。各様式を取り入れながらも、絶妙なバランスで構成された自由様式の建築と言える。同年、安井建築事務所が創立されている。

大阪倶楽部は設立から一〇〇年を超え、今もつて現役。四階ホールでは定期的に演奏会が開かれている。ここには時代を乗り越え、残し伝えていかなければならない建築と、大阪の文化がある。

建築人 11

2013

監修 公益社団法人大阪府建築士会

建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

編集人代表 米井 寛

編集人 荒木公樹 飯田英二

筑波幸一郎 中江 哲

橋本頼幸 牧野隆義

事務局 山本茂樹 母倉政美

印刷 中和印刷紙器株式会社



楡の木テラス 石井良平

新たな「向こう三軒両隣」をめざした賃貸長屋住宅である。ワンルームマンションでは隣人の名前も不明のままに関わらないのが普通になり、多くの集合住宅でもプライバシーを過度に重視したため近所づきあいは失われつつある。しかし住人同士の共に住もう意識が豊かな街の形成に繋がっていくと思う。

ゆるやかな近所づきあいが生まれる関係をつくりたいと考えた。まず開口3mの2階建て住戸を南北にずらし専用庭を設けた。次にポーチとテラスを連続して「路地」のような隙間を東西に通した。行き来はできない専用軒下空間を住人同士が視覚的に共有する。また軒下空間は隣戸の庭と南北方向でも接することになる。あえて屋外の専用空間を隣戸と対面させ、生活のなかで隣人と顔を合やす機会が多くなるようにしている。道路側の1階は屋外に開いた土間スペースで趣味や店舗利用を想定した。

これまでの集合住宅は外部空間を共用することでコミュニティを形成しようとしてきた。しかし共用であるためにその使用を制限し住人にうまく利用されない面もあると思う。楡の木テラスは6軒の低層長屋としたため、接地性の高い屋外空間が全ての住戸で専用できた。専用の外部空間は住人がそれぞれの思いで利用している。視覚的に共有した屋外空間のゆるやかな境界で始まる交流が共に住もう意識を高めひとつのコミュニティとなって豊かな街の形成に繋がることを期待している。

撮影：多田ユウコ 第5回建築人賞受賞作品

■プロフィール

1955年 大阪府生まれ
1979年 北海道大学工学部土木工学科卒業
1983年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1983年 坂倉建築研究所大阪事務所入所
1995年 石井良平建築研究所設立
2007年～ 大阪工業大学空間デザイン学科非常勤講師

■建物データ

設計：石井良平建築研究所
施工：株式会社 林建設
所在地：大阪府四條畷市
竣工：2012年
構造規模：木造2階建
敷地面積：431.93㎡
延床面積：426.72㎡

